

こんにちは

-No.66



日本共産党 東村山市議会議員

山田たか子です

山田たか子事務所

TEL 395-4973

携帯090-5824-7597

<秋津事務所>

秋津町4-39-71

<青葉事務所>

青葉町2-28-6



## 中学校全員給食と補聴器購入補助 が議会で採択！

9月議会では、大きな大きな前進がありました。

### ①中学校の温かい全員給食 ②加齢性難聴の補聴器補助

9月議会に市民の方から提出された、2つの陳情。これまでも議論されてきたものの、不採択となってきた流れがありました。



### 都内で中学校全員給食

ではない自治体は3市のみ

30年以上前から、全員給食を求める保護者の運動が進められてきました。2001年から弁当併用のスクールランチが始まり、運動は一度ストップしましたが、要望が絶えることはありませんでした。

これまで反対されても、諦めずにねばり強く取り組んできた成果です。



東村山市は今後、これら実現のために取り組んでいくこととなります。早期の実現と、より良い給食・補助制度を目指し、引き続きがんばりましょう。

皆さんの声が政治を動かしています！

生活文教委員会、厚生委員会それぞれで議論され、全委員の賛成で委員会で採択。議会最終日10月5日の本会議では、給食は全議員の賛成、補聴器は賛成多数で、採択されました。

市民の皆さんと一緒に求めてきた要望を、議会としても必要性を認め、前進させることができました。

### 耳の“きこえ”は

人との交流を左右する

加齢性難聴により、人との交流が途絶えると、認知症のリスクも高まります。けれど、補聴器代が高く、“きこえ”を諦める方が大勢いらっしゃいます。加齢性難聴は徐々に進行するため気づきにくさがあり、早期発見の支援も必要です。また、専門家の指導のもと、慣らしながらの装着も必要です。

## 活動報告・今後の日程

### 9月14日「高等教育償化 シンポジウム」に参加

高い教育費が子ども達の進路選択を狭め、社会人となって返済に苦しめられている人も。

★教育費の負担軽減！

★過度な競争教育の見直し！

誰もが希望を持ち、安心して学べるような社会が良いですね。

### 9月24日「『学校統廃合』の 問題を考える会」学習会に参加

地域の学校が消えていく計画。少子化を課題としながら、少子化前提の計画を立てる行政には、課題解決への本気度が見えません。効率性や利益ではなく、子どもの声や教育施設の視点を中心に検討する必要があります。今こそ少人数学級！

### 10月1日「原発政策大転換と 福島第1原発処理水放出 の問題点」学習会に参加

海洋放出のみならず、原発の廃棄物や、汚染水処理の廃棄物などの問題は解決できず、原発との共存はとてできません。専門家からは、海洋放出以外の提案が出されています。

### 国民のいのち・安全第一

の政策への転換を。



# 2022年度決算 コロナ・物価高騰下でも黒字決算に

## 自治体のしごとは「住民福祉の増進」

コロナ・物価高騰支援は、国都の事業や、支援の活用ばかり。このような時こそ、支援が必要ですが、市の財源を活用した独自支援が足りていません。その上「**民生費（福祉に使うお金）**が高い」と、いのちを支えるお金を、削減の標的にされる動きが心配です。

お金はあります。景気の悪化や災害など、いざという事態に備えた「**財政調整基金（自治体の貯金）**」です。しかし「取り崩す」としながら、決算後に余ったお金を積みなおしているため、プラスとして使われていない現状があります。



## 2022年度は26億円の黒字決算に

2021年度の約33億円に続き、黒字となりました。もっと独自支援ができるはず。窓口業務や公園業務を民間に任せるなど、正規職員削減の結果、職員が市民の声を直接聞く場面も減っています。職員がやりがいを感じて働けるよう、職員増も求めました。



効率性や経済性を中心とする考えが、市政運営のあちこちに反映されており、日本共産党として決算は**不認定**と判断しました。

“事業の継続・存続のために医療・介護・福祉、まるごと市民サービスを削って、極力使わせないようにする”これでは本末転倒です。

## どう守る？

### 消えていく緑地と農地



市内をまわっていると、「ここも!!」「ここも!?’と、驚くほどのスピードで開発されていく緑地・農地。個人所有には限界があり、20年間で半減しています。市内の緑地を守るには市や都・国による公有地化しかありません。けれども実態は…

### 東村山の緑地保全は個人まかせ!?

市の緑地保全のための「**緑地保全基金（約5億円あります）**」が活用されていません。決算でお金が余れば「公共施設再生」「連続立体交差」には、将来を見据えて基金を積み立てる一方で、2022年度に緑地保全基金に積立てた金額は利息分のみの**2,641円**。

市長は「現在の公有地化の計画に対し、基金が不足しているとは考えていない」と答弁。

## 2023年度補正予算で実施されます

- ★低所得者世帯等エアコン新規設置費用助成
- ★秋津地区子どもの遊び場安心エリアの整備
- ★秋津中通りの舗装・補強
- ★学校給食物価高騰補助上乗せ

他

## “みどり にぎわい いろどり豊かに 笑顔つながる東村山”を実現するために

所有者が相談すれば「お金が無い」と断り、市が公有地化に後ろ向きであれば、民間事業者へ土地が渡るのは当然です。開発の際、説明不足により近隣住民を置き去りにして工事が進められる問題も出てきています。



地球を守り、食料自給率を高めることは、私たちが生きていくために急いで取り組まなければならない課題です。

緑地保全を求める声、  
ご一緒に大きな声に  
していきましょう。



日本共産党は、企業・団体献金も政党助成金も受け取らない政党です。企業・団体献金の全面禁止と政党助成制度の廃止を一体で行うことが、金権腐敗政治を無くす道だと考えます。

東村山民報 2023年10月号外 山田たか子活動紹介です。  
◇東村山民報社◇ 小松恭子 東村山市美住町1-2-5

❖山田たか子 HP    
❖いま しんぶん赤旗 がおもしろい!  
日刊紙 月3,497円(一部売130円)  
日曜版 月930円(一部売240円)  
(日刊紙 電子版 月3,497円) 